



ぎふ労福協

岐阜県労働者福祉協議会

編集発行人／筒井和浩

vol.126

2026.1.1

岐阜市鶴舞町2-6-7
ワークプラザ岐阜内
TEL(058)248-6029
FAX(058)245-2410【岐阜労福協機関紙】 連合岐阜・東海労働金庫・こくみん共済coop岐阜推進本部・岐阜県勤労福祉センター <http://gifu.rofuku.net>

新年のご挨拶

午

岐阜県労働者福祉協議会 会長 筒井和浩

岐阜県労働者福祉協議会に集う会員の皆さん、日頃から労働者福祉運動を支えていただいている関係団体の皆さん、あけましておめでとうございます。

2025年は、猛暑を超える酷暑を感じる終わらない夏を経験しました。また、全国各地で線状降水帯による被害も散見されました。年末には、青森県沖で震度6強の地震も起きました。加えて、木の実の不作、個体数の増加、冬眠しない等、アーバンベアと呼ばれる個体が市街地で多く目撃され、北海道ではヒグマ、本州ではツキノワグマによる人身被害、農作物被害が多く発生しました。私たちは常に自然災害と隣り合わせで暮らしており、日頃からの防災・減災の取り組みと有事の際には支え合い・助け合いの精神が必要であることが改めて明らかになったといえます。

コロナ禍を経て社会経済活動の回復は進み、労働組合等の頑張りで高水準の賃上げが実現していますが、私たちの生活に直結する光熱費や食品はじめ生活必需品などの値上がりが続いています。また、急速に進む少子高齢化、格差や貧困、社会の分断が深刻化するなど、私たちを取り巻く状況も厳しさを増しています。

このような今こそ、私たちは、生活困窮者支援の取り組みや、ライフサポート活動、こども食堂の取り組みなど、地域の様々なネットワークで支え合い・助け合う、地域共生社会の構築をめざした取り組みを、力を合わせて進めていかなければなりません。

岐阜労福協は、一昨年7月に、安定したこども食堂への食品の提供及びフードロスの解消や家庭ごみの減量を推進するとともに、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に寄与することを目的に、ワークプラザ岐阜1階と東海労働金庫岐阜支店ロビーの2箇

所に「フードドライブポスト」を設置しました。集まった食品は、(一社)ぎふこども食堂ネットと連携し、岐阜県内の子ども食堂などを通じて、食品を必要としている子どもたちに無償で提供されています。昨今の物価高の影響は、生活者を直撃しており、地域に寄り添った直接的な支援を行う活動が益々必要とされます。共助の輪の拡大に向け、労働団体・事業団体・労福協がそれぞれの立場で取り組んでいくことが求められます。

また、昨年の国際協同組合年でも再確認された、労働者自主福祉運動や協同組合運動などの共助の輪を広げるとともに、NPOや市民団体などともつながり、社会や経済の発展への協同組合の貢献に対する認知を高める取り組みをともに進めて行きましょう。

今年も、中央労福協が2030年ビジョンで掲げためざす社会像「貧困や社会的排除がなく、人と人のつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくせる持続可能な社会」を実現するための取り組みを、組織の枠を超えて全力で展開してまいります。

今年の干支は十干と十二支を組み合わせると、「丙午(ひのえうま)」の年となります。午(うま)は、躍动感、行動力、成功、前進の象徴とされ、幸せを運ぶ縁起の良い動物とされています。また、丙(ひのえ)は、火の要素を持ち、生命力や明るさを象徴しており、丙午は、活気にあふれ、新しい挑戦や目標達成に良いエネルギーに満ちた年になるとされています。今年1年が行動力の発揮により目標が叶う成長の年となるとともに、皆さま方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

中部労福協「2025年度研究集会」に参加

2025年10月9日(木)～10日(金)14時より、名古屋市「ワーカーライフプラザあおやま」において、中部労福協主催の「2025年度研究集会」が開催されました。全体では57名が参加、岐阜労福協からは筒井会長他4名が参加しました。冒頭、主催者を代表し中部労福協水野会長の挨拶、開催地を代表し愛知労福協可知会長の挨拶の後、2日間で以下の内容の講義を受講しました。

1日目の講義1では、NPO法人中部大道芸人ネットワーク理事長の鈴村仁志氏を講師に「大道芸の『人を笑顔にする力』で社会に貢献する」をテーマに講演があり、当団体は東日本大震災を期にチャリティー活動をはじめ、数年にかけ被災地への慰問活動を実施している等の活動紹介がありました。「楽しいイベントがあるから行ってみよう」というきっかけをつくることで、本当に支援を必要としている家庭も足を運びやすい場を作ることを目的に、こども食堂に大道芸人を派遣し、パフォーマンスを通じて子どもたちに笑顔を届ける活動を過去5年で約30回実施している等、社会貢献活動の取り組みも紹介されました。また、スマイルごはんプロジェクトの一環として、モリコロパーク大道芸フェスティバル2026では、大道芸と美味しい食事で特別な一日をプレゼントする企画として、多くの子どもたちを招待する1,000人こども食堂の開催を予定している等、これからも大道芸の力を通じて、多くの人に笑顔を届ける活動を続けていきたいと話されました。

講義2では、愛知県副知事の古本伸一郎氏を講師に「愛知から日本を変える～休み方改革プロジェクトと少子化対策～」をテーマに講演があり、日本の「休み方」の課題は、「平日なら安くて空いていて良質なサービスを楽しめるのに」と問題提起から始まり、「休み方改革のカギ」は「子ども」で、子どもが休めるかどうかは学校現場の理解が大前提であると話されました。また、愛知県「休み方改革」プロジェクトとして、①あいち県民の日(11/27)・あいちウィーク(毎年11/21～27)を契機とした「休み方改革」の推進 ②家族と子どもが一緒に過ごせる仕組みづくり ③休暇を取得しやすい職場環境づくり ④平日や閑散期への観光需要のシフト ⑤地域が一体となった推進 ⑥職員の連続休暇の取得推進の紹介がありました。特に、家族の休みに合わせて、子どもが郊外で体験や探求の学び・活動を実効できる愛知発の新しい学び方・休み方「ラーニングの日」が、県内の53/54市町村(教育委員会)で順次導入され、全国15市町村へ広がっていると話されました。私たちが身体的、精神的、社会的に健康で満たされた、質の高い休み方を取得する必要性を考える機会となりました。

2日目の講義3では、連合愛知副事務局長の坂田有紀氏を講師に「働く人や地域の頼りになる存在へ～連合愛知の社会貢献活動～」をテーマに講演があり、連合愛知の主な社会貢献活動として、①助け合い運動 ②世界寺子屋運動 ③災害ボランティア派遣・被災地支援 ④フードバンク活動 ⑤農園「ここあファーム」取り組みの紹介がありました。また、新たな地域に根ざした顔の見える運動として、各地協では地域のために何かできないのか、地域の課題に寄り添い共感の得られる取り組みをしている、児童養護施設を巣立つ子どもたちへの支援を行っていると話されました。最後に、社会貢献活動を通してやりがいや生きがいを感じ、労働組合が果たす役割になっていきたいと話され、今後参考にしていきたいと思いました。

講義4では、愛知奨学金問題ネットワーク司法書士の水谷英二氏を講師に「奨学金問題に関する愛知における取り組みについて」をテーマに講演があり、奨学金問題とは経済・生活問題において、社会構造上の被害者である、学生の2.7人に1人は奨学金を借りざるを得ない社会状況にあると話されました。愛知の取り組みとしては、電話相談と面接相談、愛知県司法書士と協力し、高校への出張講演実施の紹介がありました。また、覚えておいてほしいこととして、①借金を解決してもギャンブル依存症は解決するわけではない ②自己破産、個人再生手続きなど適切な方法を選択すること ③家計簿をつけて収入と支出を確認しながら生活すること ④ギャンブルや浪費が大きく免責不許可事由があると思われる場合は個人再生を検討すること ⑤住宅を残して、他の借金を一部にするには個人再生が最適な手続きである ⑥多重債務を含め、解決できない借金問題はない等、知っておくべき内容を話されました。教育の無償化は社会の喫緊の課題であり、身近な問題として考えることができました。



▲中部労福協 水野会長の挨拶

2025年度 理念・歴史・政策セミナー開催報告

2025年10月15日(水)18時30分より、「ワークプラザ岐阜」5階大ホールにおいて、会員・各支部の役員をはじめ、若手役員の合計90名の参加(当日欠席者7名)により、2025年度「理念・歴史・政策セミナー」を開催しました。

今年度は、講師に労働者福祉中央協議会講師団講師の高橋均氏をお招きし、「競争か連帯か～労働者自主福祉事業『労金・全労済(こくみん共済coop)』の成り立ちとこれから」をテーマに講演をお願いしました。

最初に映画「ボタ山の絵日記」より、10人の子どもたちが能力に応じてザリガニを獲り、必要に応じて獲ったザリガニを配分する5分間の映像を見て、「困ったときはお互いさま」とする「連帯・絆」の意味を考えました。

戦後の1949年に生活物資を共同調達するために作られた中央労福協(物資対策協議会)は、「福祉はひとつ」が創業の精神で、分立する労働組合が生協と連携して結成したことを学びました。

銀行は労働者や労働組合には一切融資をしてくれなかつたことや、「質屋と高利貸しからの解放をめざして」労働者のための銀行として労働金庫を設立した経緯、1954年に大阪労福協が火災共済の嚆矢(こうし)となり、翌年新潟では火災共済事業を開始した発足直後に大火に遭遇し、手持ち金がなく「借りた金はいつか返せるが、失った信用は2度と戻らない」と新潟労金からの融資で対処した経緯、労金・全労済は労働組合が自分たちで自主的に作った協同組合で、「お客様」と「業者」の関係ではなく、「ともに運動する主体」であると解説されました。

労働運動と労働者自主福祉運動の未来として、女性や若者の利用促進が課題である、単組の宣伝活動から運動(活動)方針の柱の一つにする等、あらためて労働組合との関係を再構築する必要性を述べられました。

参加者からのアンケートでは、労働組合が労金や全労済を設立した成り立ちが良く分かった、役員が変わったタイミングで聞けると良い、ためになる話で若い組合員に聞いてほしい、競争と連帯の中でなるべく連帯、道徳を大切にしたい等の貴重な意見をいただき、有意義なセミナーとなりました。



▲講師 高橋 均 氏

第21回岐阜県社会貢献顕彰者追悼式開催

2025年10月30日(木)11時30分より、岐阜公園内にある社会貢献顕彰碑前において「第21回岐阜県社会貢献顕彰者追悼式」を執り行いました。

追悼式にはご遺族の方7名と、顕彰委員会委員、労働者福祉事業団体職員の併せて24名に参列をいただき、大宮事務局長の進行により、厳かにすすめられました。

追悼式の冒頭、故人を偲び出席者全員で黙祷を捧げ、顕彰委員会を代表して筒井委員長より、現在顕彰碑には22名の方が奉納され、今年度新たに奉納される小畠哲氏、本間高道氏が加わり、24名の顕彰者となり、その功績を称えるための追悼式であること、労働運動や社会運動、平和と民主主義を守る諸運動に貢献された仲間を顕彰し、その御靈を慰めるとともに、ご遺族の方を励ますことを目的に活動を展開している旨の挨拶がありました。



▲顕彰者2名の銘板奉納

また、追悼式に参列いただいたご遺族へのお札と、御靈になられた方々の安らかなご冥福をお祈り申し上げました。

最後に、ご遺族と参列者全員が顕彰碑に献花を行い、追悼式を終了しました。

追悼式終了後、ご遺族にはささやかな食事をしていただきながら、ひと時でしたが、故人を偲んでいただきました。



▲顕彰委員会 筒井委員長の挨拶



▲参列者



第61回岐阜県勤労者球技大会ボウリング県大会開催



【優勝】イビデン労働組合Bチーム



【準優勝】カワボウ労働組合

2025年11月9日(日)10時より、岐阜市内マーサボウルにおいて、第61回岐阜県勤労者球技大会ボウリング県大会を開催しました。各支部で予選を勝ち抜いた上位3チームと、昨年の県大会優勝・準優勝チームの合計17チームにより熱戦が繰り広げられました。ヨーロピアン方式で、競技は1人3ゲーム、チーム4名の合計点により団体戦を行い、結果、優勝はイビデン労働組合Bチーム(総得点2,123点)、準優勝はカワボウ労働組合チーム(総得点2,071点)となりました。また、個人の部の優勝は、池田和之さん(イビデン労働組合Bチーム・総得点571点)、準優勝は寺田庄吾さん(TYK労働組合・総得点547点)、3位は堺ちえなさん(カワボウ労働組合・総得点547点)となりました。ハイゲームは、223点で小松原裕司さん(TYK労働組合)でした。



第28回岐阜労福協チャリティーゴルフコンペ開催



2025年11月12日(水)、恒例の岐阜労福協チャリティーゴルフコンペを「ぎふ美濃ゴルフ倶楽部」において開催しました。今年度は、労福協各支部・事業団体・産別代表による15チーム56名の参加での開催となりました。

結果、団体戦は、優勝:基幹労連岐阜県本部、準優勝:労福協飛騨支部、3位:労福協西濃支部となりました。個人戦は、優勝:岡田淳一さん(基幹労連岐阜県本部)、準優勝:小川悠介さん(基幹労連岐阜県本部)、3位:武田康郎さん(岐阜県退職者連合)でした。

また、受付においてチャリティー募金のご協力のお願いをし、56,000円のご協力がありました。今回の募金は、災害等による被災地支援や復興支援のために役立てます。ありがとうございました。



【優勝】基幹労連岐阜県本部



【準優勝】労福協飛騨支部



【3位】労福協西濃支部

第61回岐阜県勤労者球技大会ソフトボール県大会開催



【優勝】下呂市職員組合



【準優勝】(株)ハウテック労働組合

2025年11月16日(日)、各務原市総合運動公園において、第61回岐阜県勤労者球技大会ソフトボール県大会を開催しました。当日は、晴天に恵まれ予定時間どおり試合を開催することができました。

今年は、岐阜・西濃・東濃の各支部2チーム、中濃支部1チーム、前年優勝(飛騨支部)・準優勝チーム(飛騨支部)の計9チームの参加による開催となりました。開会式では、大宮事務局長の主催者代表挨拶につづき、前年度の優勝「下呂市職員組合」、準優勝「(株)ハウテック労働組合」による優勝杯・準優勝盾の返還を行い、9時30分より試合を開始しました。予選より接戦が続く中、決勝戦に勝ち残ったチームは、前年度優勝チーム「下呂市職員組合」と準優勝チーム「(株)ハウテック労働組合」の同一対決となりました。熱戦の結果、18対8で「下呂市職員組合」が二連覇達成となりました。どの試合も時折笑顔や歓声が上がり、選手全員が「元気ハツラツ」のプレーで気持ちの良い汗を流しました。

中央労福協 第67回定期総会報告

2025年11月21日(金)13時30分より、東京都内日暮里のホテルラングウッドにおいて、中央労福協第67回定期総会が開催されました。

コロナ禍以降、初めて対面・集合方式での開催となり、岐阜からは、代議員として加藤事務局次長が参加しました。冒頭、芳野中央労福協会長挨拶の後、議長より代議員210名に対し、出席代議員129名・委任状78名により、総会成立が宣言されました。

第1号議案 2025年度活動報告

第2号議案 2025年度会計決算報告 2025年度一般会計収支差額処分(案)

2025年度会計監査報告

第3号議案 持続可能な労福協運動の展開に向けた取り組み(案)

第4号議案 中央労福協規約・諸規定ならびに就業規則の一部改定について(案)

第5号議案 2026~2027年度活動方針(案)

第6号議案 2026年度予算(案)

第7号議案 役員改選

第8号議案 参与の委嘱について(案)

以上、提案の全議案が承認されました。

今年度は役員改選期にあたり、南部事務局長の後任に、佐保(さほ)事務局長が選任されました。

最後にスローガンが採択され、定期総会は終了しました。



芳野会長の挨拶



退南部事務局長の挨拶

第67回定期総会スローガン

つながる力で支え合う社会へ! くらしと学びに安心を!

岐阜県へ要請書を提出

2025年11月25日(火)10時30分より、岐阜県庁20階2002会議室において、2025年度の岐阜県への要請書を提出しました。

冒頭、岐阜労福協を代表し筒井会長の挨拶、要請書の受け渡しの後、大宮事務局長より、今年度新たに要請する項目について要請内容の説明を行いました。岐阜県からは小島商工労働部長より要請書受領の挨拶があり、それぞれの担当課から要請に対する回答の説明がありました。



▲要請書の受け渡し

※2025年度の要請内容は以下のとおりです。

1. SDGs(持続可能な開発目標)の達成について
2. 奨学金制度の拡充について
3. 被災者支援と防災・減災の取組について
4. 格差の是正、貧困のない社会に向けたセーフティネットの強化について
5. 消費者行政の充実強化について
6. 岐阜県労働者福祉事業費補助金の確保について

以上、合計6分野11項目です。



▲要請に関する意見交換

「フードドライブポスト」にご協力をお願いします



▲ワークプラザ岐阜「フードドライブポスト」

岐阜労福協は、ワークプラザ岐阜1階と東海労働金庫岐阜支店ロビーの2箇所に「フードドライブポスト」を設置しています。

ポストで受け付けるのは、(1)未開封のもの (2)包装や外装が破損していないもの (3)生鮮食品以外で常温保存が可能なもの (4)回収する時点において、賞味期限まで1か月以上あるもの (5)アルコールを含まないもの(みりん、料理酒を除く)で、レトルト食品やインスタント食品、缶詰、パスタ・乾麺、菓子、茶葉、コーヒーなどを求めています。

集まった食品は、一般社団法人 ぎふこども食堂ネットが毎月定期的に回収し、岐阜県内の子ども食堂などを通じて、食品を必要としている子どもたちに無償で提供されます。

フードドライブは、ご家庭であつた食品をご持参いただき、必要な方へお届けする活動です。

より多くの方々にこの活動を知っていただいて、ぜひ、ご家庭であつた食品をご持参いただき、フードドライブにご協力をお願いします。

2025年度 勤労者チャリティー文化講演会開催



2025年12月9日(火)18:30より、「岐阜市文化センター小劇場」において、講師に「平野 早矢香」氏を招き、「昨日の自分より一步前へ～卓球から学んだ挑戦することの大しさ～」をテーマに講演をいただきました。会員をはじめ、一般募集もおこない多くの方々に参加していただきました。

講師の選定にあたっては、岐阜労福協および各支部役員の投票により、「平野 早矢香」氏を選定しました。「平野 早矢香」氏は、現在一児の母として子育てをしながら、ミキハウススポーツクラブアドバイザーとして後進の指導に務め、全国各地にて、講習会、講演会、解説、そしてスポーツキャスターとしても更なる卓球の普及のため、幅広く活動されています。

講演では、今の日本代表として活躍している選手は、今の時代に合ったプレースタイルは何かを研究して身に着けている。日本のジュニア世代は、他国と比較して小さいころから自費参加(企業・スポンサー等)で海外のツアーに参戦している。そして、目標設定(明確で具体的)の大しさとそこに向けて小さいころから高い意識を持って練習をしていると話されました。

私自身の一番初めの大きな目標は、小学校2年生の時、同世代の中で日本一になる目標を持ち、達成するのに10年かかった。一つの目標を達成するためには、長い期間真摯に向かい合い、努力を積み重ねなければ出来ないということを経験できた。また、これまで進学・就職・引退等の大きな決断は、全て自分自身の意志で責任と覚悟を持って決断し、後悔したことはない。

私は、中学生の時から、「日々前進する」という言葉を大切にしている。それは周りの選手と自分を比較するのではなく、昨日の自分と

今日の自分を比較し、昨日の自分より何か一つ上手になれる、成長できるように選手生活をしてきた。

ミキハウスに入社して、自分が世界に挑戦するために、自分自身を大きく変えることに取り組み、卓球の用具(ラケット・ラバー)を変えた、卓球の技術(サーブ)を変えた、古武術を学び、古武術の「いいとこ取り」をして、体の使い方を変えた、勝負に対する心構えの四つを変えた。これまでの習慣を変える過程においては、今までできていたことができなくなる、勝っていた試合に勝てなくなる、前の動きの方が早く動ける等、前の自分に戻りたくなる時があるが、リスクを負ってでも変え続けるしかないと自分に言い聞かせ、自分自身を進化させることにこだわった現役生活だった。

メダルが取れなかった北京オリンピックとメダルを獲得したロンドンオリンピックとは、一つだけ違ったことがあり、それは大会までの準備で、中国以外の韓国・香港・シンガポールの12名に対象を絞り、12通りの戦略をまとめ、自分のプレースタイルを強化してロンドンオリンピックに臨んだ。

最後に、これからも私の後輩たちを暖かく応援してほしいと熱く語られ、現役競技生活26年の興味深い話が色々と聞け、大変有意義な時間を過ごすことができました。

※来場者数とチャリティー募金は以下の通りです。

来場者数：会員 288名、一般 9名、地域 10名 合計 307名

チャリティー募金：84,764円

多くの方々にご参加いただき、募金にご協力をいただき誠にありがとうございました。募金は被災地の復興支援に役立させていただきます。最後に会場の設営・運営にご協力いただきました皆さまには心より感謝を申し上げます。



▲講師 平野早矢香 氏



▲会場の様子

ワーク プラザ 岐阜

無料駐車場80台完備

各種研修や会議、イベント、セミナーなど皆さまの多目的な用途に応じて大小さまざまな研修室を充実した設備とリーズナブルな料金でご用意しております。

〒500-8163 岐阜市鶴舞町2丁目6番地7
TEL／058-245-2411 FAX／058-245-2416
URL <http://work-plaza-gifu.lekumo.biz/workplaze/>
駐車場／80台
休館日／12月29日～1月3日

会場名	面積(m ²)	収容人数
大ホール	305.87	210
大会議室	131.57	78
大会議室	123.62	78
中会議室	62.38	36
小会議室	404	37.16
	405	(12.5畳)
		12

新春のお慶びを申し上げます

東海労働金庫 専務理事 高田勝之

こくみん共済coop 岐阜推進本部 本部長 内藤浩

(一社)岐阜県勤労福祉センター 理事長 筒井和浩